

【総括】

1. 今年度は、コロナ禍の影響を大きく受けた年度であった。職場訪問の規制や働く障がいのある方の自宅待機者38名、解雇者1名と影響が出た。北部地域は観光産業で働く方も多くまだまだ先が見えないが、企業や関係機関と連携を図りながら定着支援を行いたいと思う。

また、2年前から管轄行政より指導を受けている法人の障害者雇用率未達成は、法人全体で取組んだ事で改善されつつあり、6月1日調査へ向けて引き続き全体での共有が必要と思われる。

2. 在職者経験交流会の開催

コロナ禍で延期になったが①ビジネスマナー講習会（株式会社 Message）②サイバー犯罪防止教室（名護警察署生活安全課）をソーシャルディスタンスを確保しながら開催した。また③社会人の異性との付き合い方（沖縄県助産師会）は、初のオンライン開催となったが、ITリテラシーの課題なども表面化し、次年度の課題として取り組む必要がある。

3. 公共職業安定所と特別支援学校に連絡会議開催

6月と12月に沖縄高等特別支援学校・名護特別支援学校在校生の実習先確保と卒業生の就労状況を把握する事を目的にソーシャルディスタンスを確保し連絡会議を開催した。今年は新たに北部農林高等学校進路担当教諭にオブザーバーで参加して頂き。北部農林高校で支援が必要な生徒の卒業後の進路やどのような支援を受けられるか等共有出来た。次年度からは新しいネットワーク構築で参加して頂く予定である。

4. セミナー開催

沖縄県商工労働部の「障害者等雇用開拓・定着支援事業」を受託し、事業の一環で①「自閉症のたどしい理解と支援」②「精神・発達障がい者の職場定着を考える」をテーマに県外より講師を招聘しセミナーを開催したが、コロナ禍で延期や講師のオンライン参加等、様々な変更と対応が必要であった。また第2回目はハイブリッド開催を試みた。企業等はオンライン参加が都合が良い事も把握出来たが、開催する側の課題も見えてきた。今後はハイブリッド開催が当たり前になりつつあり準備を整えて次年度は望みたい。

5. 関係機関連携と地域貢献

- ・ 沖縄県立名護特別支援学校 学校評議委員
- ・ 沖縄県発達障害者支援センターがじゅま〜る連絡協議会委員
- ・ 沖縄県キャリア教育・就業支援等の充実事業就業支援ネットワーク委員
- ・ 沖縄県北部圏域自立支援連絡協議会就労部会長
- ・ 生活保護受給者等就労自立促進事業担当者連絡会

上記委員会に参加しているが、中止やオンラインで開催変更もあった。

6. 苦情受付件数無し

7. 職員異動

定年 退職	依願 退職	異動	新規 採用	臨時 退職	臨時 異動	臨時 採用	増減
0	1	0	0	0	0	1	0

【関係資料】状況報告（令和3年3月31日現在）

(1) 登録状況（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
在職中	39	127	50	35	251
求職中	75	104	141	27	347
その他	0	11	0	0	11
合計	114	242	191	62	609

(2) 令和2年度新規求職者数（障害別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	7	28	17	6	58

(3) 職場実習あっせん件数（障害別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	1	26	2	0	29

(4) 就職件数（障害別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	5	19	14	7	45

(5) 支援件数（障害別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
支援件数	283	2,830	915	537	4,565